

【第1次遠洋航海】遠洋航海編③

5/3（金）より漁業実習が始まりました！現在のところ、6回を終えて漁獲量は約5トンと絶好調です！一日に1トン以上とれた日もあり、さらに、174 cm 97 kgの大バチも釣れ生徒は大興奮でした！

今日は漁業実習について少し説明したいと思います。漁業実習では、作業班の生徒は投縄班・揚縄班を基本として、班ごとに異なる時間帯で作業を行います。投縄班は、3時30分に起床し朝ご飯を食べ、4時半前には作業開始です。投縄は約4時間かかります。揚縄班は14時～作業開始です。班にもよりますが、作業時間が長い班だと22時まで作業を行うため慣れるまでは疲れます。でも、大きなマグロやカジキを目の当たりにすると、言葉では表現できない気持ちになります。生徒は、学校では学べない、体験できない経験を積んでいます。一方、当直班は通常の当直に加え、操業野帳を記入します。操業野帳には、釣れた魚の魚種や体重、体調、雌雄などの情報を記入し、資源調査のお手伝いのため水産庁へデータの提供を行っています。湘南丸では枝縄の数（餌が付いているロープ）が1500本、全てのデータを記録します。野帳係は大忙し！



投縄作業（左前は餌付け係、右側は枝縄係）



174 cm 97 kgの大バチ



カゴに枝縄をきれいに詰めて船尾へ運ぶ



左前はベルトコンベアーを足で操作しつつ、餌投げ係にスナップ（金具）を渡す



枝縄を綺麗に巻くことで明日の釣果につながります



マグロの尾にロープを通す